



情報には、自分が直接体験したことや自分が行った調査をもとにした一次情報と、他の人から見聞きしたことをもとにまとめた二次情報があります。情報源の特性に気をつけながら、発信日より新しい情報を優先しましょう。



信頼性を確かめる

多くの情報があふれる現代、知り得た事柄が信頼できるかどうかを検証することが大切です。文章が客観的な根拠に基づいているかどうかを確認し、学級新聞の記事にして、自分の考えを発信しましょう。



客観性や信頼性のある記事を書く

題材

構成

考えの形成・記述

推敲すいこう

共有

■情報の探し方

人にきく

・友人・知人・専門家など、情報をもっている人から情報を得る。

図書館・書店で探す

- ・自分で本や資料を探す。
- ・司書のかたに相談する。



マス・メディア（出版社、新聞社、放送局）・インターネットで探す

- ・新しい情報が手に入りやすい。
- ・いつ、誰が発信したか、確認する必要がある。

目標

- 情報の信頼性の確かめ方を理解し、活用する。
- 目的に応じて題材を決め、伝えたいことを明確にして記事にする。





学習活動の流れ

題材

1 社会問題の中から興味のあるテーマを選び、情報を集める。

- ・問題の詳細や解決策を調べる。
- ・国や自治体、企業や小売店、個人などさまざまな情報源から集める。

構成

2

情報の信頼性を確認する。

- ・知り得た事柄は一次情報か、二次情報か。
- ・情報を伝えた人の主観による偏りはなにか。
- ・どのような人や機関の発信した情報か。
- ・得た情報より発信日の新しい情報はないか。
- ・身近な人に取材し、意見の裏づけをとる。

考えの形成・記述

3

伝えたいことを明確にして記事を書く。

- ・論理の展開が適切か確認する。
- ・情報の引用元を明らかにする。

推敲

4

推敲する。

共有

5

新聞の形にまとめる。



情報の信頼性を考える様子



日本国内の食品ロス量は年間五百七十万トンというデータがあるね。



その数値が書かれている新聞記事より新しいデータが、農林水産省のウェブサイトに出ていたよ。



発信日を確認すると、これが最新のデータのようなね。



国の省庁から出されているデータだから信頼性が高いかもしれないね。



日本の食品ロスについてデータを出している他のウェブサイトも、農林水産省のこのデータを引用していたよ。農林水産省のデータがもたっているようだね。

食品ロスを考える

日本における食品ロス量は年間五百二十万トンであると推計されています^①（令和二年度推計値…農林水産省ウェブサイト <https://www.affrc.go.jp/>）

○えつらん2023年○月○日閲覧）。この現状について消費者庁などでは令和三年度に「外食時の『おいしい食べきり』全国共同キャンペーン」を行いました。その内容は、ウェブサイトやSNSによる情報発信、外食時の食べきりを推進するポスターの掲示などです。私は、これらの取り組みは啓発運動としては有効だと考えますが、実際に外食産業やスーパーなどの小売店では、食品ロスに対してどのような取り組みを行っているのか気になり、調べてみました。

まず、全国にチェーン展開しているスーパーマーケットでは、米や紅茶、コーヒー豆などをグラムからの量り売りに行っていることがわかりました（○○スーパーのウェブサイト <https://○○/○○.html> ○年○月○日閲覧）。この取り組みについて私は、使い残したまままで消費期限を迎える食品が減るばかりか、実際に使う分だけを購入することができるとの出費が減り、消費者にとってもメリットがあると考えました。

④ さらに、個人商店で行われている取り組みについても知りたいと思いい、地域の青果店に行ってきたみました。すると、……（以下略）

言葉・情報

まず、……。さらに、……。 (順序づける)



学びを生かす

振り返り

- 一次情報と二次情報の違いについて考えながら情報を集めているか。
- より客観的・論理的な記事を書き、伝えたいことを明確にして発信しているか。

他教科で持続可能な社会の実現に向けて話し合うとき、参考にしよう。

① ウェブサイトから情報を得た場合はURLと閲覧日を記載し、引用元を明らかにする。

② 引用するデータについては、信頼できる省庁やマス・メディアなどの発表を選択する。

③ 事実と意見を分けるため、自分の考えを示す際には「私は」などの主語を使う。

④ 客観的に考えを書くために、複数の視点から事実を捉える。

⑤ さらに信頼性の高い記事にするため、身近な人に取材する。

